

## マタイの福音書 第9章 9節

「イエスは、そこを去って道を通りながら、取税所にすわっているマタイという人をご覧になって、『わたしについて来なさい』と言われた。すると彼は立ち上がって、イエスに従った。」

旅の途上での呼びかけである。イエスの旅は天の父なるところより、地上への旅であった。そして、地上で野山を通り、湖畔で宿り、湖上を急ぎ、街々村々を巡る旅となった。一人でも多くを父なる神のもとへと導くための旅である。この地上の旅は、やがてエルサレムの城壁の外で十字架に架けられることで終わる。その旅の途上、公の生涯の旅の道中での出来事がここにある。マタイと言われる取税人が声をかけられる。

当時の取税人は他国の支配者と組んだ特権を悪用し、人々から法外な税の取り立て役を担っていた。立場を利用し過剰な取り立てで私腹を肥やした嫌われ者だ。その者にイエスは声をかけ、わたしについてきなさいと言う。衝撃的出会い、驚きでしかなかったであろう。

するとマタイは立ち上がり、イエスに従った。出来事は極めてシンプルに描かれている。呼び声にただ啞然とするばかりであったからかもしれない。わたしに、と言われたイエスに出会い。ついて来なさい、との呼びかけに従うとき、マタイの、人々の道は変わる。人生が、旅が変わる。

2023年7月17日